



UD TRUCKS

サステナビリティ
レポート

2019

UDトラックス株式会社



Since 1935

時世が求める自動車を造る。

UDトラックスは1935年の創立以来、「時世が求める自動車」を造る、という創業者・安達堅造の理念を事業の礎として、先進的な技術と製品、サービスの開発に注力し、お客さまに最適な輸送ソリューションを提供し続けてきました。その姿勢は、「UD(Ultimate Dependability)」——「終わりなき究極の信頼」というUDトラックスブランドのコア・バリューとして、未来に受け継がれていきます。



目次

UDトラックス、 イノベーションの歴史	2
トップメッセージ	4
Our Vision	5
次世代技術ロードマップ、 「Fujin & Raijin— ビジョン2030」が発進。	
UDトラックスのサステナビリティ	11
サステナビリティ活動報告	
お客さま	13
ビジネスパートナー	19
従業員	21
社会	25
環境	27
コーポレート・ガバナンス	33
UDトラックスについて	35
ボルボ・グループについて	36

編集方針

UDトラックスは、社会課題の解決に貢献する価値創造の取り組みや、それに伴う社会・環境面の取り組みをステークホルダーの皆さまにご理解いただくために、「サステナビリティレポート」を発行しました。本レポートでは、「スマートロジスティクス」の実現に向けた当社の次世代ロードマップとともに、とくに注力している取り組みを紹介しています。

報告対象範囲

UDトラックス株式会社
一部項目は、UDトラックスブランドとして海外で展開している活動も報告

報告対象期間

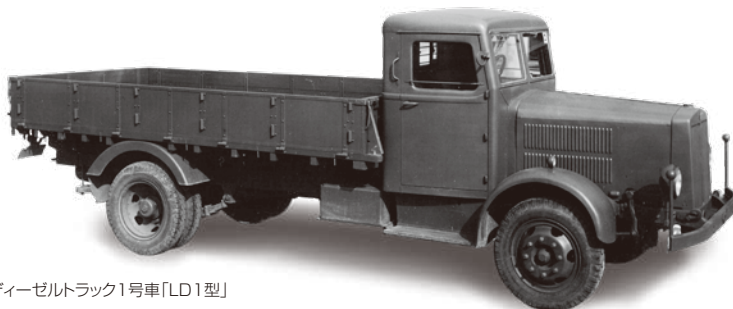
2018年度
(2018年1月1日～2018年12月31日)
一部、それ以前の経緯やデータ、2019年度の活動、
将来の活動予定も報告

発行年月

2019年12月

UDトラックス、イノベーションの歴史

1932年、1933年と相次いで現在の日産自動車、トヨタ自動車の前身企業が誕生。乗用車の開発が進む一方で、当時の需要の多くは産業振興を支えるトラックでした。



ディーゼルトラック1号車「LD1型」

1935

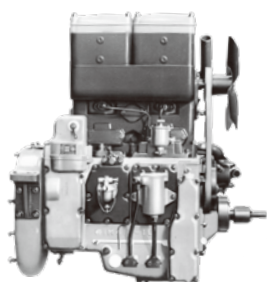
1935

安達堅造が、ディーゼルエンジン製造を目的とした日本デイズル工業(株)を埼玉県川口市に創立



1938

当社初のディーゼルエンジン開発



1939

1939

ディーゼルトラック1号車「LD1型」が完成。全行程3,000kmの試験走行を実施



1968

1968

🇯🇵 日本のトラックメーカーとして初めてクライスラー社と米国へのUDエンジンの輸入契約を締結



1962

上尾工場の操業開始

1960

1960

日産ディーゼル工業(株)に社名変更

1958

🇯🇵 日本初の積載量10トン超「6TW型」誕生。新幹線の敷設などで活躍

1955

1955

独自技術による「UDエンジン」誕生



終戦直後はGHQによって自動車製造が禁止されていましたが、戦後復興が進むなかで、1945年にトラックの生産が許可され、各メーカーが新型エンジンの開発を競いました。

1965年に日本初の高速道路・名神高速道路が、1969年には東名高速道路が全線開通し、本格的な高速輸送時代を迎えます。トラックメーカー各社は、時代の要請に沿った高出力エンジンを開発。大量輸送時代を支えました。

1971

🇯🇵 日本初のターボ付直接噴射式ディーゼルエンジン「PD6T」開発

1975

1975

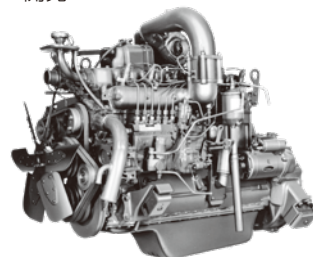
中型トラック「コンドル」誕生



1989

🇯🇵 レーザレーダー追突防止装置「トラフィックアイ」を世界で初めて商品化

🇯🇵 世界初の可変ノズルターボ開発



🇯🇵 世界初(中型トラックおよび大型トラック用)

🇯🇵 日本初(中型トラックおよび大型トラック用)

社歴 84年

1935年、ディーゼルエンジンの製造を目的に創立。社会のニーズに応え、新たな高みにチャレンジし続ける行動力はUDトラックのDNAとなっています。

従業員数 (日本国内、契約社員等および派遣社員を含む、2018年12月末日現在)

6,188名

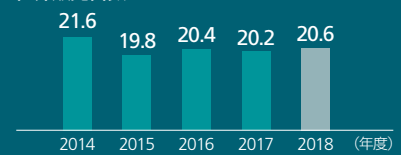
人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境が企業の持続性につながるという方針のもと、日本人だけでなくヨーロッパやアジア、アメリカ、アフリカなど25カ国籍の従業員が働いています。

2018年度 世界販売台数

20,636台

日本を中心に、アジア、アフリカ、オセアニアなどでUDトラックの車両を販売。それぞれの市場のインフラや貨物特性に応じた物流ニーズに幅広く対応しています。

世界販売台数 (単位:千台)



国内サービスネットワーク

(独立資本販売会社を含む)

165カ所



販売・サービス展開国

60カ国以上

日本で、世界で、広範なネットワークを通じたきめ細かなサービスを展開。国内では約6万台のトラックとテレマティクスでつながるなど、お客様のビジネスを24時間365日サポートしています。

気候変動、人口動態の変化、都市化、技術革新などグローバルな社会課題を解決する手段として「自動運転」「エレクトロモビリティ」「コネクティビティ」への注目が高まっています。

2004

2007

日産ディーゼル工業(株)がボルボグループに加わる

2004

- 🌐 フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生。排出ガスの浄化装置にトラックとして世界初となる尿素SCRシステムを採用
- 🌐 世界で初めてニーエアバッグとニープロテクターを装備



2002

- 🌐 日本初の大型CNGエンジンを「ビッグサム」に搭載
- 🌐 世界初のキャパシターハイブリッドトラック開発

1998

- 🌐 日本初の電子制御ユニットインジェクター搭載エンジン「GE13」開発

1997

- 🌐 日本初の大型トラック用電子制御ブレーキシステム「EBS」搭載

1996

- 🌐 日本初の中型CNGエンジンを「コンドル」に搭載

1995

- 🌐 日本初の電子制御式トランスミッション「ESCOT」搭載

1990

1990

低排出ガスで、快適・安全性を向上させた大型トラック「ビッグサム」誕生

1990年代の国際的な環境意識の高まりを受け、日本でも「自動車NOx法」が1992年6月に公布、同年12月に施行されました。

2010

2010

UDトラックス(株)に社名変更

- 🌐 日本初のリモート診断サービス「UDインフォメーションサービス」を開始

2013

2013

新興国市場向け大型トラック「クエスター」誕生



2014

2014

小型トラック「カゼット」誕生
販売会社UDトラックスジャパン(株)を併合



2017

2015

創立80周年

2017

新型「クオン」「コンドル」発売、新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」誕生



Toward 2030

“持続可能な 輸送ソリューション”の リーダーへ。

ネット取引の増大にドライバー不足や燃料費の上昇、環境規制の厳格化など、物流業界は今、さまざまな社会課題に直面しています。これらの課題を克服しながらも成長を続ける上で、私は経営に2つの視点が必要になると考えています。

一つは、どんな環境変化のなかにあっても、揺らぐことのない理念をもつことです。UDトラックスが80年の歴史を超えて今日あるのは、「時世が求める自動車」を造る、という創業者の思いを受け継ぎ、愚直に課題と向き合い、社会の血流といわれる物流に多くの技術革新を提供してきたからです。これからも、私たちのDNAであるこの理念を継承していきたいと思います。

もう一つは、長期ビジョンをもつことです。現在、商用車を含めた自動車業界は、さまざまな課題解決に向けて、「自動運転」「電動化」「コネクティビティ」をめざしています。この大きな変革を成し遂げるためには、ボルボ・グループの総力を結集し、ステークホルダーの皆さまと共通のゴールに向けて協働することが重要になります。そこで2018年4月に、2030年までの次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin—ビジョン2030」を策定し、これからのゴールとプロセスを明確にしました。

確固たる理念をもとに、常に革新的な企業であり続けること、持続可能な輸送ソリューションのリーダーとして未来を見つめて、ステークホルダーの皆さまとともに成長し続けること。そのためにUDトラックスは邁進してまいります。

代表取締役社長

酒巻 孝光



Our Vision

次世代技術ロードマップ、 「Fujin & Raijin— ビジョン2030」 が発進。

雷神
Raijin

風神
Fujin





次世代技術ロードマップ

2018

大型トラックによるレベル4自動運転
デモンストレーションを公開

2019

自動運転の実証実験を実施

2020

限定領域での自動運転を実用化

2030

自動運転・フル電動
大型トラックを量産化

物流は、一人ひとりの豊かな生活を支え、社会が円滑に機能するための重要な社会インフラの一つです。この物流に関わるさまざまな課題を見据え、創造的で革新的な思考によって企業活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献することは、商用車メーカーであるUDトラックスの責務といえます。

世界各地で気候変動や資源の枯渇といった問題や、高齢化や安全意識の高まりなどが顕在化する今、次世代の繁栄に向けて、自動運転や電動化、コネクティビティといったイノベーションが求められています。

それらは、物流業界が直面するドライバー不足や環境対応、安全性といった課題へのソリューションを生み出します。UDトラックスは、これらイノベーションに支えられた先進的な物流を「スマートロジスティクス」と呼び、技術や製品、サービスの開発に注力。2018年4月には、その取り組みを一層強化していくために、2030年をゴールとする次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin—ビジョン2030」を策定しました。

プロジェクトリーダーが語る「ビジョン2030」

解決を待つ課題。 拓かれる 新たな可能性。

UDトラックス開発部門統括責任者

ダグラス・ナカノ



時世が求める価値を追求

私たちUDトラックスは、創立以来、「時世が求めるトラックとサービスを提供する」というビジョンを追求し続け、これまで世界初、日本初といった数々の革新的な技術と製品を産業社会に提案してきました。そうした観点で現在の輸送業界を捉えた

時、eコマース市場の拡大と小口配送需要の増加によるドライバー不足の問題、燃料費の上昇、環境規制強化への対応などは喫緊に解決すべき課題です。

衣食住に関わるモノを運ぶ輸送サービスは、社会の繁栄を根幹で支える産業です。この輸送サービスを持続可能なかたちへと変革していくことは、世界最大規模の大型商用車メー

自動運転の実証実験で使用している 大型トラックに搭載した先進技術

限定領域での自動運転技術(レベル4)を搭載し、正確に記録させた走行ルートを前方の障害物を検知しながら自動走行します。



GPSシステム

GPS信号を使い、記録したルートの上を走行します。北海道での実証実験では、より高度なネットワークRTK-GPSを利用。

3D LiDAR

前方の障害物の有無を検知することで、安全な自動走行をサポート。



カーの一つであるボルボ・グループにとっても、日本社会の発展とともに歩んできた私たちUDトラックにとっても、率先して果たすべき社会的使命だと考えます。また、日本政府においても現在、「自動運転」の実現を社会課題の解決策の一つと位置づける「Society 5.0^{*}」という政策が進展しています。

こうした状況認識をもとに、当社では2017年に発売した大型トラック「クオン」以降、「スマートロジスティクス」をキーワードに、燃費性能の向上と環境配慮、運転性能・安全性の向上、稼働率・生産性の向上などに向けた技術と製品・サービスの開発に注力。これら製品・サービスをお客さまごとに最適化した“輸送ソリューション”として提供してきました。さらに、2018年4月には、こうした取り組みを一層加速していくために、次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin—ビジョン2030」を公表しました。

※日本政府は、「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会を「Society(ソサエティ)5.0」と名づけ、人工知能、ロボット、IoTの活用など、第4次産業革命を通じて人々の豊かさと生産性を高めていくイノベーションの実現をめざしている。

「未来のあるべき姿」からマイルストーンを設定

「Fujin & Raijin—ビジョン2030」の最終目標は、2030年に「自動運転」「フル電動」大型トラックを量産化することです。「Fujin」は風の神である「風神」に由来しており、モノを動かす力、すなわち自動運転を表しています。「Raijin」は雷の神「雷神」に由来し、電気之力、すなわち電動化を表しています。今回、私たちは、日本の輸送サービスの課題の深刻さと持続可能性を考えれば、遅くとも10年後にはこの2つの目標を達成すべきという“あるべき姿”からバックキャストし、2030年までの3つのマイルストーン——<大型トラックによるレベル4の自動運転デモンストレーション><自動運転の実証実験><限定領域での自動運転の実用化>——を次世代技術ロードマップ(P6参照)上に示しました。ロードマップの策定にあたっては、現状の技術や製品・サービスのレベルの延長線上で考えることも重要ですが、少子高齢化など課題先進国であり、かつ高い環境技術をもつ日本の商用車メーカーとして、より高い目標を掲げる必要があると考えたのです。

また、長期視点でのロードマップを発表したもう一つの理由として、「ステークホルダーとのパートナーシップをより強化していきたい」という思いがあります。自動運転トラックも電動トラックも、社会インフラとして定着させるためには、実際に利用するお客さまや荷主の方々やサプライヤーはもちろん、道路管理を管轄する自治体や運輸行政を担う官庁と一体となって進める必要があります。また、先端技術を取り入れるために、今まで取引のなかった多様な産業界のパートナーとチームを組むこともあるでしょう。そうしたなかで、明確なビジョンを掲げることは、多様なステークホルダーとの長期にわたるパートナーシップを築いていく上で意味のあることと考えます。実際、2019年8月に実施した自動運転の実証実験も、地方自治体やパートナー企業と協働することで大きな成果を上げることができました(P10参照)。

ボルボ・グループとUDトラックの強みを活かして

実際の技術・製品開発にあたっては、ボルボ・グループとUDトラックの強みを融合しながら進めています。

ボルボ・グループの強みは、グローバルなネットワークを活かして、世界各地で行われているテスト走行や実証実験で得た



知見・知識を集約した「CAST(Common Architecture & Shared Technology)システム」を有していることです。これは、商用車を開発する上で不可欠な多種多様な技術をコンポーネントとして体系化したものです(図参照)。CASTシステムを活用することで、レベルの高い製品を迅速に開発することができます。

一方、UDトラックスは、日本・アジア市場に対する深い理解力・洞察力を有しています。これら知見を活かしてニーズを明確化しながら、日本の約500名、海外を加えると約850名の開発スタッフがUDトラックスブランドの製品開発にあたっています。どういう製品をどのタイミングで、どんな技術を用いて開発していくかという裁量権を持っており、CASTシステムを活用した方が効率的な場合はボルボ本社のエンジニアにアクセスして緊密に連携する一方で、市場に合った独自技術の開発にも取り組む——そんなイメージでとらえてもらえば良いでしょう。

これら双方の強みを活かして、自動運転については、“認知”に関わる車載カメラやレーダー、LiDAR(レーザーによる画素検出と距離測定)、“判断”に関わる車載ソフト、“操作”に関わるステアリングシステム、ブレーキ、エンジンなどを開発しています。また電動化に対しては、バッテリー方式やハイブリッド方式といった多様な技術を進化させながらお客さまニーズに最適な製品を開発していきます。

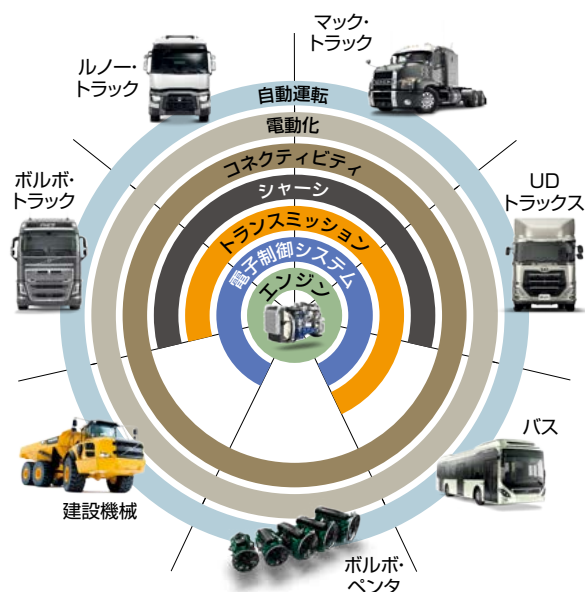
さらに、自動運転や電動化を含めたスマートロジスティクスを支える重要な技術として「コネクティビティ」と「デジタル化」があります。UDトラックスは早くからこの領域に力を入れており、すでに国内で約6万台のトラックがテレマティクスでつながっています。

未来に向けた革新を支える従業員たち

今回、私たちは企業としての社会的使命から「ビジョン2030」を掲げましたが、その最大の原動力になったのは、「社会課題解決」と「お客さまのビジネスの成功」を一体化して捉え、目標の実現のために努力を続ける従業員たちの存在です。彼らの理解と協力なしでこうした挑戦的な目標を掲げることにはできません。そんな従業員たちが各々の能力を発揮しながら、One UDとして一丸となるプロジェクトを率い、お客さまのビジネスに貢献できることは、私にとっての大きな喜びです。そして、リーダーとしての責任を果たすために、今後もより良い方策を立案し、ベストな意思決定をしていきたいと思えます。

「東京モーターショー2019」で、UDトラックスは、「INNOVATION FOR SMART LOGISTICS 暮らしを支える物流に、革新を。」をテーマに「今日」「明日」「未来」のトラックを出展しました。これは、現在のお客さまからの信頼に満足することなく、常に未来のお客さまや社会課題を洞察しながら、今できることに全力を傾注する私たちUDトラックスの姿勢を表しています。この姿勢をあらゆるステークホルダーと共有することで、「革新的な企業」としての存在感を高め、持続可能な輸送ソリューションのリーダーをめざしていきます。

ボルボ・グループ CASTシステム



自動運転大型トラックによる 実証実験を実施。

国内初の 「公道を含む試験走行」

UDトラックスは、2019年8月5日～30日にかけて、日本通運（株）、ホクレン農業協同組合連合会との3社合意に基づき、レベル4技術を用いた大型トラックによる自動運転の実証実験を実施しました。また、同29日には政府、業界、報道機関関係者を招待し実証実験を公開しました。実験では、ホクレンの中斜里製糖工場周辺の公道からん菜集積場、加工ラインまで、実際の運搬業務を想定した環境を整備。公道を一部含むルートでの自動運転大型トラックの実証実験は国内初となりました。



最先端の 自動走行技術を駆使

実験では大型トラック「クオン」をベースに開発された車両に、ネットワークRTK-GPS（リアルタイムキネマティック全球測位システム）を活用。悪天候や悪路においても誤差数センチで自己車両の位置を測定しながら時速20kmで自律走行することを確認しました。UDトラックスの酒巻社長は式典で「レベル4自動運転技術を搭載したトラックの限定領域での活用はまさに今、時代が求めるソリューションです。今回のような実証実験を通して、物流業界や農産業などさまざまなステークホルダーのニーズを知り、ノウハウを積み上げ、より早い社会実装をめざしていきます」と意気込みを語りました。



実証実験の動画を公開しています。



UDトラックスは国土交通省と経済産業省が推進するトラック隊列走行プロジェクトに参加しています。

安心・安全な運転支援技術の 普及促進に向けて

物流業界では今、ドライバー不足や省エネといった社会課題の解決に向けて、また安心・安全な交通社会の実現に貢献しながら業界全体で成長を図っていくために、商用車の「隊列走行」への取り組みが進んでいます。こうしたなか、国土交通省では省を挙げてこれら活動を支援していくために「自動運転戦略本部」を立ち上げ、安心・安全を最優先とした運転支援技術の普及を促進しています。具体的には、自動運転の実現に向けたさまざまな実証実験を業界各社と協働して実施しています。これら実験を通じて得た知見を各社と共有し、技術課題を一つひとつ解決しながら将来に向けた環境整備を進めています。

国土交通省 自動車局
技術政策課
自動運転戦略室長

平澤 崇裕 氏



8月29日の実証実験には、UDトラックスの酒巻社長、ナカノ開発部門統括責任者、日本通運の竹津副社長、ホクレンの内田代表理事会長、土屋北海道副知事が列席したほか、経済産業省、国土交通省、農林水産省、自治体、農業関係団体、業界関係者、報道陣など158名が臨席し、関心の高さを示しました。

ステークホルダーの皆さまとともに
社会課題の解決を通じて新たな価値創造に挑戦しています。

社会の課題

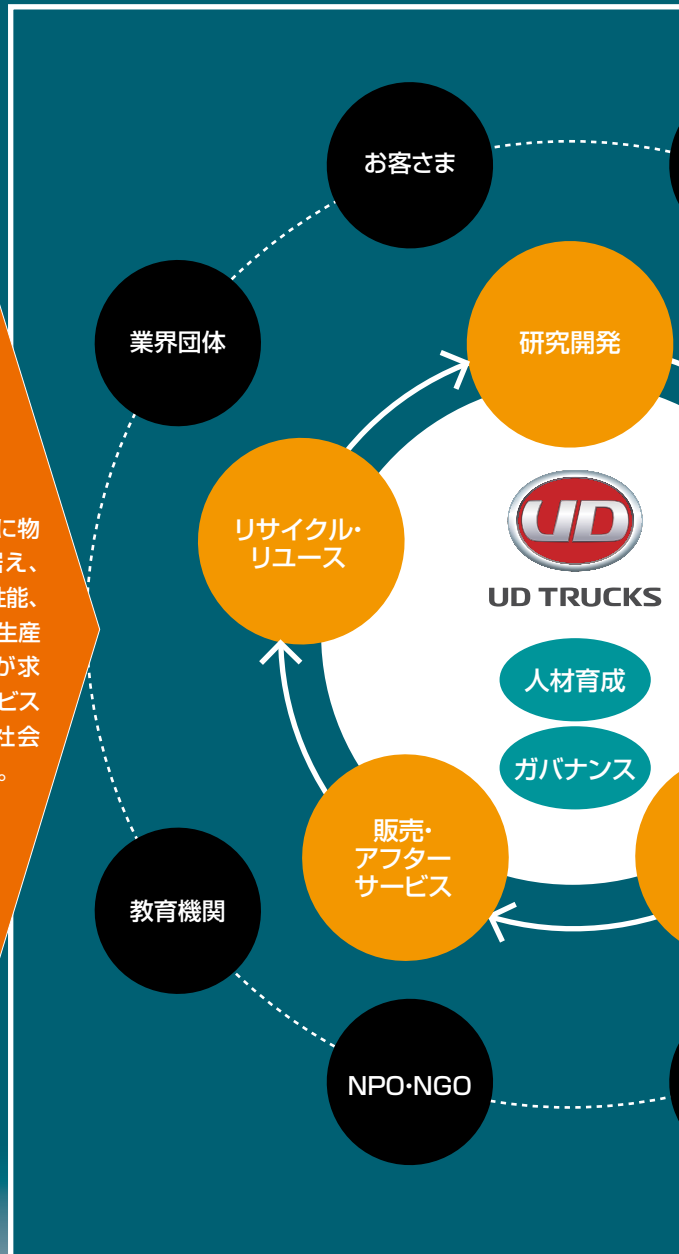
- 交通安全と交通渋滞
- 環境問題
- 高齢化
- ネット通販の拡大

物流業界の課題

- コストと生産性改善
- 規制強化
- ドライバー不足
- 物流ニーズの変化

私たちの使命

UDトラックスは常に物流の一步先を見据え、稼働率、燃費・環境性能、運転性能、安全性、生産性において、時世が求めるトラックとサービスを提供し、豊かな社会づくりに貢献します。



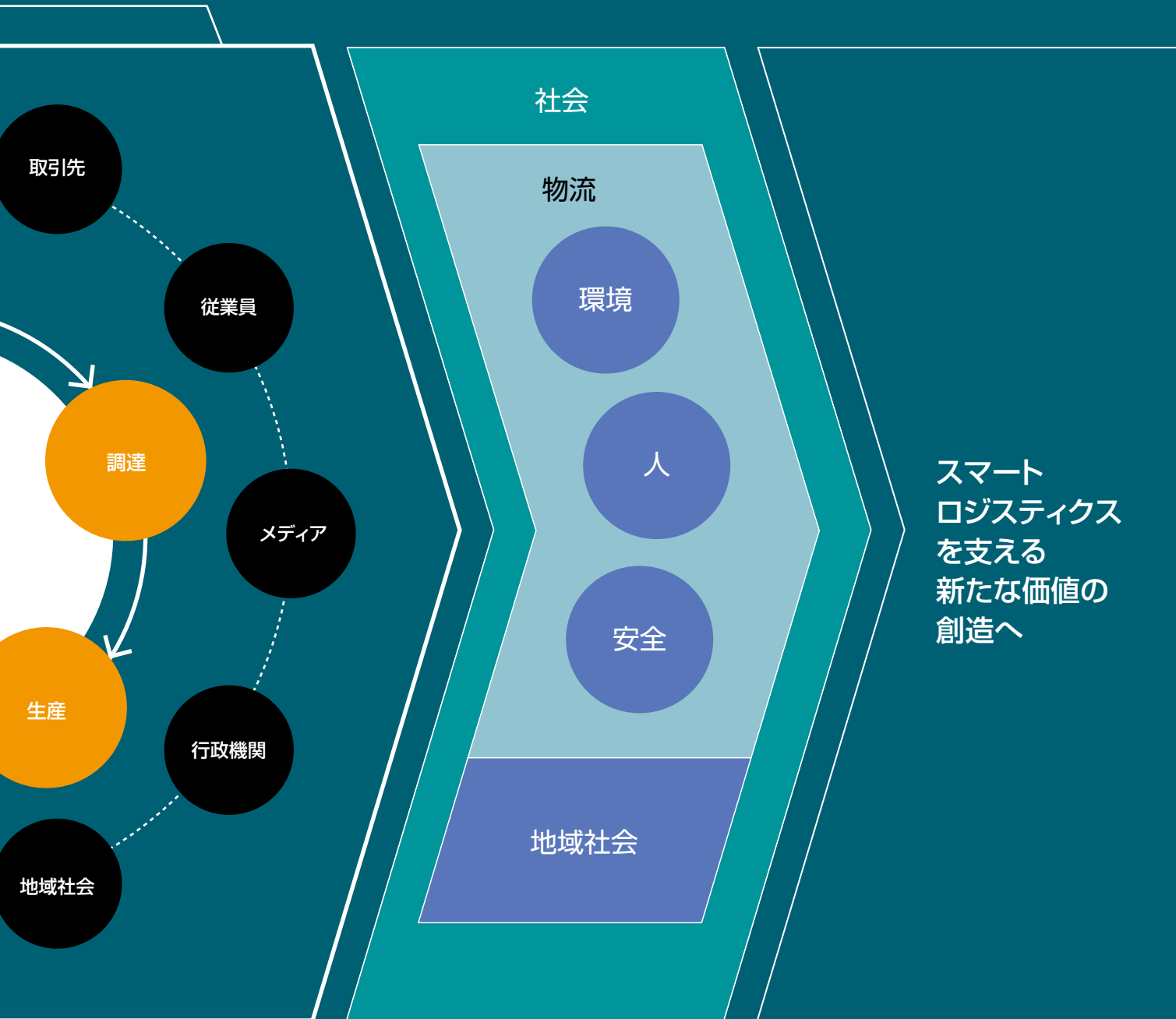
ボルボ・グループ



VOLVO PENTA

TEREX TRUCKS





SDGsへの取り組み

2015年国連総会において採択されたSDGs (UN Sustainable Development Goals) については、17目標すべてを視野に入れつつ、「人」「安全」「環境」「地域」に関わる課題解決を重視する、とするボルボ・グループの考え方を基盤としながら、UDトラックスの事業方針や個々の市場のニーズなどを加味して取り組んでいます。





1-1

お客さま

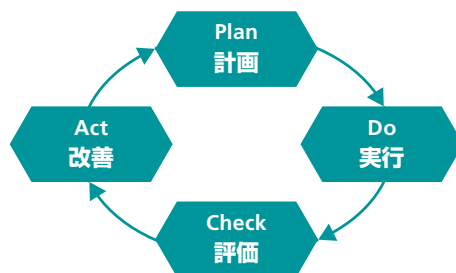
品質の向上

基本的な考え方

UDトラックスでは、「お客さま重視」「従業員一人ひとりによるコミットメントと参画」「プロセスに基づくアプローチと継続的な改善」から成るボルボ・グループの品質方針に則り、開発から生産、販売、アフターマーケットに至るすべての事業活動で、品質の確保・向上に取り組んでいます。

ISO9001 認証取得状況

UDトラックスでは品質マネジメントシステムの国際的な認証であるISO9001を導入しています。生産部門では2002年度に、開発部門では2016年度にISO9001を取得しました。PDCAのサイクルを回していくことで、継続的に改善を進め、品質の向上につなげています。



品質問題発生時の迅速な対応

品質問題の発生時にお客さまへの影響を最小限にするために、開発、生産、アフターマーケットの部門から構成される「クオリティ・アクション・グループ」を2017年に設置しました。同グループには、本社で対策を講じるチーム、ディーラー拠点やお客さまにも出向く技術専門チーム、支社に常駐して現地で直接対応にあたるチームを設けており、各チームが機能的に連携することで、問題の特定から対策の実行までを迅速かつ正確に行っています。

こうした部門横断の取り組みによって、関係者全員で品質情報をタイムリーに共有するとともに、スムーズな対応につなげ、お客さま満足度の向上に努めています。

製品開発での取り組み

UDトラックスは、ボルボ・グループ内での横断的なプロジェクトで製品開発を進めています。

開発部門では、ボルボ・グループ共通のプロセスを取り入れながら、UDトラックス独自の品質評価基準を設けています。開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能、機能、耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの構築により、品質の向上と同時に開発期間の短縮も実現しています。

生産での取り組み

生産部門では、UDトラックス独自の管理手法に従って部品のデリバリーや製造過程での生産・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質レベルを維持しています。より一層の改善を求めたUDトラックスの品質管理手法は、ボルボ・グループ内の各工場でも採用



されています。

また、従業員の品質意識向上のため、毎年11月を「品質月間」と定め、部署ごとに工程の再確認、過去の不具合対策の実施状況などを確認し、さらなる技術レベルの改善を進めています。

アフターマーケットでの取り組み

お客さまに日々安心してトラックを使用していただけるように、整備スタッフのスキルアップを柱にアフターマーケット品質の確保・向上に努めています。

2013年からは、本社に集まる最新の製品品質や技術サポート案件をディーラー拠点のスタッフと共有し、現場の知識を強化するための研修会「アップタイム・カンファレンス」を毎年開催しています。2018年は、全国のメカニックとパーツ担当者など約350名が参加し、エンジンや車両、電子電制など6つのセッションを通じて知識を深めました。さらに、お客さまにおける車両

の稼働率の最大化をテーマに議論しました。

また、UDトラックスのアフターマーケットに携わるスタッフの技能向上を目的とした世界規模の技能競技会「UDトラックス現場チャレンジ」を2年ごとに開催しています。約半年をかけて行われるこの競技会では、実際のサービス現場で起こり得る実践的な課題(学科・実技)が与えられます。参加者は課題に取り組むことで新たな知識や技術を習得しています。2018年大会には、世界各地から過去最多の347チーム、約1,300名が参加し、このうち12チームが本社での最終戦に臨みました。

製品の品質に関する情報開示

お客さまの安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

届出件数(各年1～12月)

	2016年		2017年		2018年	
	UDトラックス	ボルボ・トラック	UDトラックス	ボルボ・トラック	UDトラックス	ボルボ・トラック
リコール	4件	3件	6件	1件	9件	1件
改善対策	0件	2件	0件	1件	1件	0件
サービスキャンペーン	4件	6件	5件	3件	7件	3件



1-2

お客さま

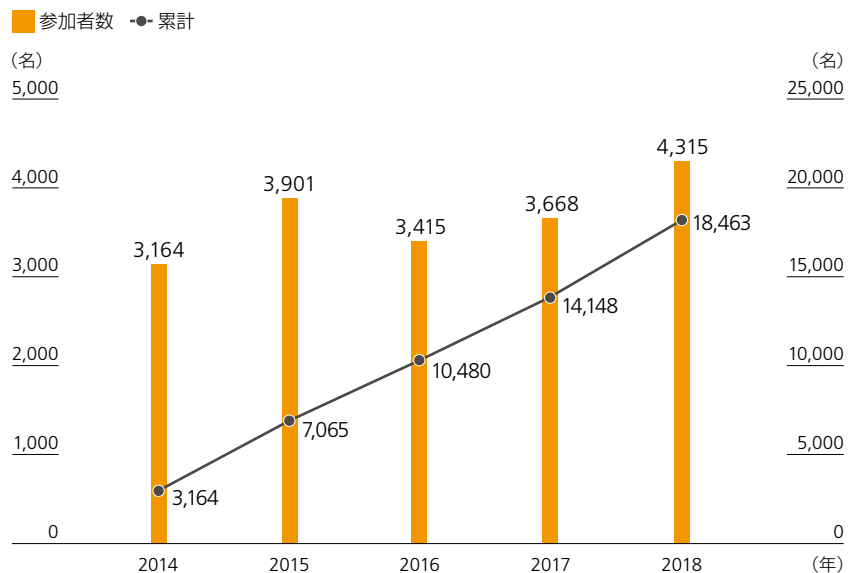
安全性の向上

基本的な考え方

UDトラックスでは、自社製品に起因する事故をゼロにする、というボルボ・グループの安全方針に則り、安全性向上の継続的な取り組みを行っています。お客さまの製品の使用方法に関する知見を深め、安全性に関して起こりうる問題を体系的に検証しながら製品やサービスを開発しています。

また、お客さまや対象市場のニーズ、交通インフラなどに適した安全機能を備えた製品・サービスの提供に努めています。

安全運転講習会の参加者数(2014年以降実績)



先進安全技術の導入

社会やお客さまの安全性に対するニーズの高まりに応えるために、先進的な安全技術の開発・普及を進めています。

大型トラック「クオン」には、トラフィックアイブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）、ドライバーアラートサポート（ふらつき注意喚起装置）など、先進技術から生まれた安全システムを搭載しています。また、耐フェード性、放熱性の高いディスクブレーキを採用するなど、すべての基本性能に安全への配慮を盛り込んでいます。これらによって、ドライバーの安全運転のサポートに加えて、周囲の道路利用者の安全性も同時に確保することをめざしています。

寒地走行試験

厳しい自然環境下でも、安定した車

両性能を発揮し、安全性を確保するために、零下20℃を下回ることも珍しくない北海道北見市において毎年寒地走行試験を実施しています。2018年は1月～2月の厳寒期に、6台の車両を投入し、約300名の開発技術者が参加しました。全長約1,000mの圧雪コースにアイスバーン、シャーベット路、くぼ地などを配置し、パワートレインやブレーキの性能テストのほか、さまざまな路面状況における走行試験、車両に付着する氷雪の影響確認試験、脱出試験、エンジン始動試験などを行いました。また、市街地や峠などの公道でも試験を実施し、長い日は1日で約300kmを走破しました。

安全運転講習会

トラックをより安全に運行していただくために、「安全運転講習会」を開催し

ています。

お客さまの要望に応じて、「運輸安全管理」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などのなかからテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。講習会で用いるツールは、実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーで撮影された映像を使って、事故を疑似体験していただくなど、お客さまが事故を自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。2018年は145回（2017年137回）実施し、4,315名（同3,668名）のお客さまにご参加いただきました。



「クオン」に搭載した先進安全技術

トラフィックアイブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）

ミリ波レーダーとカメラによる二重の監視機能を採用し、走行中に前方車両に衝突するリスクを検知すると、警告灯などでドライバーに注意を喚起。さらに追突する可能性のある距離に車両が近づくと、注意を促すと同時に自動的にブレーキングを行い減速。AEBS01シリーズ（2019年11月に施行される衝突被害軽減ブレーキの性能要件強化）にいち早く対応しています。



LDWS（車線逸脱警報装置）

カメラが左右の走行車線を検知し、車速60km/h以上で走行中にドライバーが意図せず走行車線から逸脱すると、警告灯とブザーで注意を促します。



ドライバーアラートサポート（ふらつき注意喚起装置）

カメラが走行車線と車両との位置関係を認識し、車両のふらつき状況から運転に対する集中度を推測。集中度が低下したと判断した場合に、2段階の警告音とマルチディスプレイのウォーニングメッセージの表示でドライバーに注意喚起し、休息を促します。



UDSC（車両横滑り時制動力・駆動力制御装置）

カーブや滑りやすい路面などで車両の不安定な状態をセンサーが検出すると、エンジン出力やブレーキ、各タイヤへの制動力を適切に制御し、車両の姿勢を安定させます。





1-3

お客さま

お客さまサポート

基本的な考え方

UDトラックスは、お客さまに選ばれたビジネスパートナーとなることをめざしています。そのために、製品の特性についてお伝えする機会を積極的に設け、性能を十分に活用していただくことを通じて、トラックドライバーの確保や稼働率の向上、環境対応など、お客さまが直面する課題を解決し、その収益や事業運営に貢献する活動に取り組んでいます。

トラック輸送業界が抱える課題への取り組み

ドライバー不足の解決に注力するトラック輸送業界への貢献をめざし、「女性ドライバー向け試乗会・意見交換会」を定期的開催しています。

2018年のプログラム

1. 女性エンジニアによる講演
2. 工場見学
3. 大型トラック「クオン」試乗会
4. 質疑応答



開発を担当したUDトラックスの女性エンジニアによる講演。女性ドライバーからの要望が多い「トラックの乗務に抵抗を感じない、運転や仕事が快適にできる車両」の観点から、人間工学を重視したキャブの設計についてお話ししました。とくに乗降のしやすさや安全性に影響するグリップ(手すり)の形状へのこだわりを紹介しました。

女性ドライバー向け 試乗会・意見交換会

日本国内では貨物輸送の9割以上※をトラックが担う一方で、トラックドライバーの不足が社会課題として顕在化しています。なかでもトラックドライバーに占める女性比率は約2.4%と低く、労働環境の改善を通じて、女性の業界参画を促進することが喫緊の課題になっています。そこで、国土交通省は2014年からトラックドライバーをめざす女性を応援する「トラガール促進プロジェクト」を展開しています。

UDトラックスは、その一環として、2018年1月に本社敷地内のUDエクスペリエンス・センターに女性ドライバー23名を招き、2回目となる大型トラック「クオン」の試乗会と意見交換会を実施しました。

試乗会では、人間工学に基づき女性でも運転しやすい「クオン」の設計などに前向きな評価をいただき、「大型免許を取得して大型トラックを運転したい」との声も寄せられました。女性や初心者でも簡単に運転ができ、燃費効率の優れたトラックを提供することで、人手不足という業界課題の解決に取り組んでいます。

※トン(貨物重量)ベース。



エコドライブ講習会

2007年から、トラックドライバーを対象に「エコドライブ講習会」を開催しています。講習会では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。とくに、UDインフォメーションサービス(UDIS)※を活用した講習会では、ギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的に運転の癖を把握し、効果的な対策ができること好評をいただいています。

2018年は全国81カ所(2017年85カ所)で開催し、1,018名(同1,213名)のお客さまに参加していただきました。受講後は燃費が平均で24.9%向上したとのデータが得られており、お客さまの燃費向上とCO₂排出量の削減に寄与しています。

※車両に搭載している車両情報を収集・分析するためのシステム。

UDエクストラマイルチャレンジ

お客さまにUDトラックスの製品とサービスを最大限に活用していただくと同時に、熟練トラックドライバーの育成に積極的に貢献するために、世界中のUDトラックスドライバーを対象とした運転技術競技会「UDエクストラマイルチャレンジ」を毎年開催しています。

2018年10月に本社で開催した最終戦において、クオン部門で優勝したシンガポール代表のドライバーは「この1年間、今回のイベントに向けて全力を尽くしてきました。燃費、貨物の保護など多くのことを学ぶことができ、とても貴重な経験となりました」と出場の感想を話しました。

お客様相談室

お客さまからのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。また、迅速かつ適切に対応するために、社内フローなどを適宜見直しています。

2018年の総受付件数は3,791件(2017年4,691件)でした。

女性ドライバー向け試乗会・意見交換会 参加者の声

大型車で仕事をする意欲がわいてきました。



最近、乗務車両の2トン車がマニュアルからオートマチックに変わり、思い通りに加速・減速できず、ストレスを感じていました。今、大型免許の取得にチャレンジ中で、スムーズかつ高性能な「クオン」に試乗できたことで、大型車で仕事をする意欲が一気にわいてきました。

日本通運株式会社 一柳 陽子 様



2

ビジネスパートナー

パートナーシップの強化

基本的な考え方

お客さまのビジネスの成功に貢献するためには、お客さまのニーズに沿った先進的で優れた品質の製品を開発・生産するとともに、長期間にわたって確実なアフターサービスを提供することが重要です。その実現のために、サプライヤーや独立資本の販売会社は、UDトラックスのビジネスにおいて欠かすことのできない大切なパートナーです。

UDトラックスでは、お客さま満足の視点やボルボ・グループの方針を重視しながら、ビジネスパートナーとのより良い関係の構築をめざしています。

ボルボ・グループ調達実績(2018年)

製品・サービス購入額

2,703億SEK

世界40工場で25億個の部品を調達

一次サプライヤー社数

約51,000社

うち約6,000社は自動車部品サプライヤー／
自動車部品サプライヤーからの購入額比率91%

自動車部品サプライヤーの
CSR自己評価合格率

96%

ISO14001認証取得または
同等サプライヤーからの調達比率

約91%

自動車関連調達費用による比率

地域別調達比率

ヨーロッパ	北米	アジア	南米	オセアニア
62%	26%	7%	4%	1%

サプライヤーとのパートナーシップ

原材料や設備、日常業務に必要なサービスや消耗品の購入にあたっては、グローバル調達の見点から、ボルボ・グループの方針に則った調達活動を推進しています。社会からの関心がとくに高い、現地生産や貿易関税、輸送、そして紛争鉱物への取り組みを持続可能なサプライチェーンマネジメントにおける重要な課題と位置づけており、サプライヤー各社にも、持続可能な社会の実現のために責任ある行動をとることをお願いしています。

人権デューデリジェンスプログラム

ボルボ・グループは、人権デューデリジェンスプログラムを実施し、サプライチェーンの持続可能性に関わるリスクを特定・分析するとともに、優先順位を付けて各種施策を推進しています。プログラムの核となるのはサプライヤーを対象とした「サステナビリティ監査」で、サプライヤーの施設を訪問し、とくに労働条件、人権、健康・安全についての取り組みを評価しています。2018年は、主に中国、インド、南アフリカの35社を対象に監査を実施しました。2019年には、調達段階での選択基準として当監査を展開する計画です。

同時に、社内外の理解促進にも注力しています。2018年には、調達部門の全従業員を対象に、持続可能な調達に関するeラーニングを開始しました。また、サプライヤーにはDRIVE Sustainability*を通じて、人権、環境パフォーマンス、企業倫理についてのトレーニングを提供し、2018年は、中国、タイ、スペイン、ハンガリーなどの約100社が受講しました。

*自動車業界のサステナビリティを推進するためのヨーロッパを中心としたパートナーシップで、世界の大手自動車メーカー10社で構成。

人と地球と収益のバランスの維持

ボルボ・グループは、サプライチェーン全体を通じて、人、地球、収益のバランスを維持していくことをめざしています。その実現に向けて、従来から全サプライヤーに「サステナビリティ自己評価調査」への協力を求め、ボルボ・グループが重視する行動をサプライヤーでも実践するよう要請してきました。2018年はこの取り組みを一歩進め、人権、労働条件、安全衛生、原材料の責任ある調達、環境パフォーマンス、企業倫理におけるサプライヤーへの基本要請をまとめた「サプライヤー行動規範」の整備に注力しました。

また、自社の製品に使用する原材料とその環境、社会、ガバナンスにおける影響についての対策を進めており、DRIVE SustainabilityとResponsible Minerals Initiative(RMI)*の調査報告書に基づき、錫、タングステン、タンタル、金、コバルトといった特定の鉱物に焦点を当てた紛争鉱物プログラムを実施しました。さらにボルボ・グループとして、該当鉱物のサプライチェーンに

おける透明性を積極的に確保し、デューデリジェンスを実行するために、RMIに加盟しました。

*自動車および電子産業における原材料の責任ある調達を審査する国際NGO。

独立資本の販売会社とのパートナーシップ

UDトラックスは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客さまに提供しています。各社の地域に根ざした事業活動を尊重しながら、お客さま満足度の向上を共通の目標として、直系ディーラーと同じ研修やイベントを開催し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

アフターマーケットに関わるスタッフへのサポート

アフターマーケットに関わるスタッフの技能向上を積極的にサポートしています。研修会「アップタイム・カンファレンス2018」には、独立系ディーラーから40名が、またUDトラックスの国際的な技能競技会「UDトラックス現場チャレンジ2018」には11チーム41名が参加しました。





3

従業員

多様な人材の活躍支援

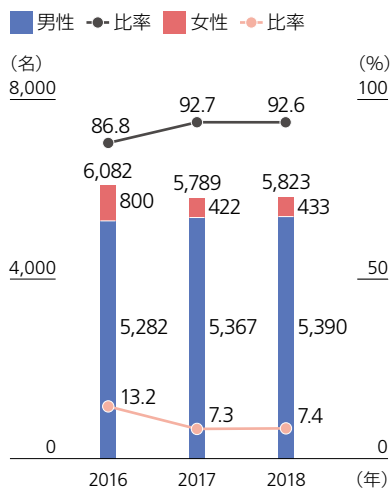
基本的な考え方

国際的な視野に立って事業を推進するため、「グローバルでハイパフォーマンス」という人材像を掲げ、優秀な人材の採用と、体系的な人材育成制度、公正・公平な評価制度の構築に注力しています。

制度の設計や運用にあたっては、「個人の尊重」「自発性」「多様性・クロスファンクショナル」「チームワーク」「情熱・責任感」「オープンな対話」といった価値観を重視するとともに、従業員意識調査の結果などを踏まえ、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりに努めています。

従業員データ(2018年)

従業員数



対象は直接雇用の従業員

採用者数

319名
(新卒177名/
キャリア142名)

女性管理職者数

52名

国籍数

25カ国

アイルランド、アメリカ、インド、インドネシア、ウクライナ、オーストラリア、カナダ、韓国、スウェーデン、スペイン、スリランカ、タイ、中国、ドイツ、日本、ネパール、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ベルギー、ポリビア、マレーシア、南アフリカ、ミャンマー

※2018年12月末日現在

ダイバーシティ& インクルージョンの理解と浸透

ダイバーシティ※1は会社の業績向上に不可欠であるという考えのもと、従業員のさまざまな違いを尊重しています。また、人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことで、持続的な成長をめざしています。定期的を実施している従業員意識調査では、主に性別、国籍、年齢でダイバーシティの度合いを、チームの一員として必要とされていると感じているかなどを問う質問でインクルージョン※2の浸透度を評価し、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)マネジメントの強化を図っています。

2018年は、ハラスメントに関するワークショップや、D&Iに関するリーダー向け研修会、男女平等をテーマにした従業員と経営層の対話などを実施し、従業員の理解向上に取り組みました。

さらに、毎年10月に開催している「D&Iウィーク」には、ジャーナリストの白川桃子氏やNPO法人ファーザリング・ジャパン代表の安藤哲也氏をゲストに招き、女性のエンパワーメントについての講演会を開催しました。

※1 性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条、社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

※2 自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、周囲からの支援と関与を感じること。

従業員によるD&Iの推進

D&Iの推進にあたっては、人事部門だけでなく全社の従業員がさまざまな活動に携わっています。トップダウンとボトムアップの双方向アプローチによって、D&I文化の浸透をめざしています。



D&Iの理解促進

社長が代表を務め、所属部門、世代、性別、国籍の異なる従業員がメンバーとして参加する「DICJ(Diversity & Inclusiveness Community Japan)」を設置しています。

DICJは、D&Iの理解促進に取り組んでおり、2018年はハラスメントに関するワークショップや、D&Iに関するリーダー研修、各種イベントを実施しました。また、「D&Iウィーク」では活動メンバーの中心となり、プログラムの検討や事前の広報活動、各イベントの企画・運営などを行っています。

女性従業員の能力・スキル向上の支援

女性従業員の能力・スキル向上を支援する職場環境づくりをめざして、女性従業員のみで構成する会社認定のボランティア組織「WIN(Women's Inclusive Network)」が活動しています。

2018年は、経営層との対話セッションやメンタルヘルス・健康関連の研修、コミュニケーション向上トレーニングなどを企画・実施しました。

人材採用と女性従業員の活躍推進

個々人の関心や志向、能力と、企業としての中長期戦略を踏まえて採用活

動を実施しています。2018年度は、177名の新卒者、142名のキャリア保有者を採用しました。

また、女性従業員の活躍推進にも力を入れており、現在52名の女性管理職がさまざまな部署で活躍しています。さらに、従業員に公平に機会を提供するため、すべてのオープンポジションは、原則、社内公募制度の応募者から登用しています。

能力開発の支援

現在の業務だけでなく、将来重要となる知識や能力の開発・向上にも重点的に取り組んでいます。2017年に「人材開発推進委員会」を設置し、具体的な検討を重ねています。その一環として、新しい研修管理システムの導入やトレーニング施設の充実などを進めています。

また、従業員が自ら学ぶ企業風土づくりのために、2018年は本社で「ラーニングデー2018」を開催しました。従業員に能力開発の必要性を伝えるとともに、会社が提供する教育プログラムと受講方法について具体的に紹介しました。

評価制度

全従業員が毎年、年間目標を設定し、半年ごとに上司と進捗を確認しています。また、個人の目標達成度をベースに、チームや全社の目標達成度などを加味した報酬制度を整備しています。

従業員意識調査

従業員に会社に対する理解を促し、経営参画意識を醸成するために、従業員意識調査を定期的を実施しています。またスコア向上のために、対話集会や「フィーカ※」の開催、イントラネットでのタイムリーな情報共有など、年間を通じてコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。

※スウェーデンでティーブレイクを利用して行われるカジュアルな対話。

ワークライフバランスの充実

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーなどを整え、ワークライフバランスの充実に支援しています。

個別の働き方を支援する 主な制度・ポリシーなど

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- テレワーク(在宅勤務)制度
- コアタイムを設けないフレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー(ハラスメント防止策)
- 定時退社促進活動

安全な職場環境づくりと 従業員の健康増進

従業員が健康で安心して働ける職場の実現のために、継続的な改善に取り組んでいます。

人車分離による安全の向上

本社・上尾工場では、従業員や来社される方の安全確保のため、敷地内の車両通行ルートを整備し、人と車の動線を分離しています。また、正門付近の道路は近隣小学校の通学路になっていることから、歩道の整備やグリーンベルトの設置を行い、児童の安全の確保に努めています。

健康意識啓発イベント

2018年6月に本社フィットネスルームにおいて、従業員の健康意識向上を目的としたイベントを実施しました。参加者は、体重やBMI、筋肉量、体脂肪量、基礎代謝量、内臓脂肪レベルなどを詳細に測定。それら身体情報をもとに、トレーナーからカウンセリングや、食事や運動などに対するアドバイスを受けました。また、ヒーリングや腰痛改善のヨガ教室には約50名が参加しました。

ストレスチェックテスト

メンタルヘルス不調の予防のために、従業員のストレスチェックテストを実施しています。結果によって、医師やカウンセラーとの面談を促しているほか、医師からの助言に基づき、業務内容の見直しなどを行っています。



従業員が自身の成長を考える1日

「ラーニングデー2018」を開催



「プロジェクトマネジメント」プログラムを紹介する人材部門のスタッフ



「研修管理システム」のデモンストレーション

2018年8月、従業員の能力開発の一環として「ラーニングデー2018」を開催し、のべ約2,000名の従業員が参加しました。

UDトラックスでは、2017年に従業員が研修プログラムの検索や受講履歴の確認などを容易に行うことができる新しい研修管理システムを導入するなど、従来から従業員のスキルアップを支援する環境づくりに取り組んできました。今回の「ラーニングデー」では、「学ぶ組織になる」をテーマに、学びに対する従業員一人ひとりの意識をさらに高めることをめざしました。

会場となった本社オーデトリウムでは、経営層からの学びを奨励するスピーチのあと、「新しいことを学ぶ」体験として、5つのセッションで社内のさまざまな知見を発表。また、オーデトリウムとは別に設けた2カ所のブースでは、研修管理システムの使用法についてのデモンストレーションや、研修プログラムの一つである「プロジェクトマネジメント」を例に資料展示を行いながら、個別の相談にも対応しました。

参加した従業員のアンケートでは、半数以上が高評価を付け、「学びの必要性が理解できた」「以前から知りたかったことが具体的にわかって良かった」といった声が多数寄せられました。UDトラックスでは、能力開発に対する意識の浸透と研修受講者の拡大をめざし、今後も継続的にラーニングデーを開催する計画です。

主催者の声

有益な情報や向上心を刺激するコンテンツを提供し、UDトラックスの人材力を強化していきます。

初の試みだったため、従業員にいかに関心をもってもらい、参加してもらうかが一番の課題でした。そこで、事前にポスターやウェブサイトに参加することの意義やメリットをわかりやすく紹介したほか、当日はスタンプラリーなどゲーム要素のあるアクティビティも用意しました。こうした取り組みによって多くの従業員が参加してくれたことは、人材育成戦略の推進において大きな成果になったと思っています。従業員が「学び」に対して高い関心を持っていることも改めて確認できましたので、今後も有益な情報や向上心を刺激するコンテンツを積極的に提供していきたいと考えています。



ボルボグループ・ユニバーシティ
(研修開発担当)
北山 智香子



4
社会

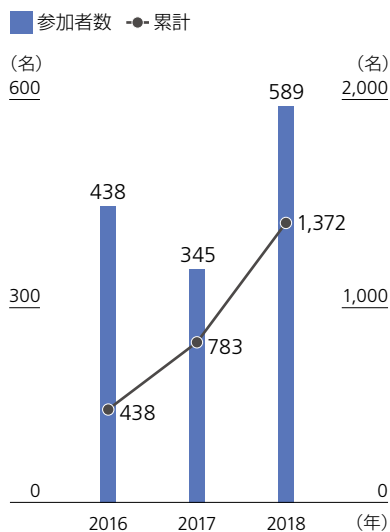
社会貢献活動

基本的な考え方

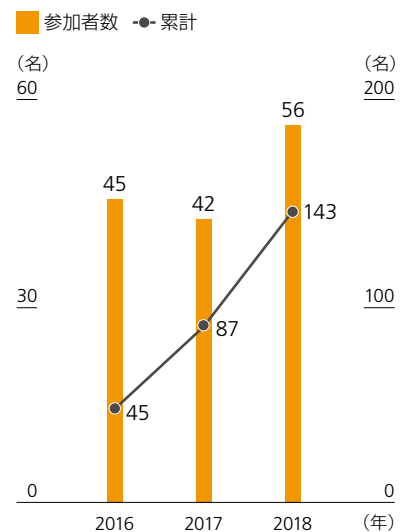
UDトラックスの持つ専門性や人材、施設・設備、機能といった経営資源を活かして、社会貢献活動に取り組んでいます。事業所を置く地域コミュニティや自動車関連業界など、さまざまなステークホルダーのニーズや課題に寄り添い、共に価値を生み出す活動を通じて、より良い関係を構築し、持続可能な社会の実現に寄与することをめざしています。

小学生向け交通安全教室の参加者数

児童



従業員



小学生向け交通安全教室

埼玉県は、営業用トラックによる死亡事故件数が常にワースト上位に位置しています*。UDトラックスは、埼玉県に本拠を置くトラックメーカーの社会的責任の一つとして交通事故の防止に貢献することを目的に、2016年から上尾市内の小学生を対象に交通安全教室を実施しています。

「体験」を重視したこのプログラムでは、1学級ごとに、大型トラックを使用して死角や内輪差を体験しながら、安全行動について学んでもらっています。2018年までの3年間に参加した児童は1,372名、また、のべ143名の従業員がスタッフとして運営に携わりました。引率の先生からは、「実際に体を使って経験できたことが子どもたちの印象に残り、貴重な学習になりました」などの感想をいただいています。

*公益社団法人全日本トラック協会の統計データより。対象は、営業用トラックのうち軽自動車を除く。

インターネット体験会

IT部門の従業員が主体となって、2016年から60歳以上の上尾市民を対象に「インターネット体験会」を開催しています。

このプログラムは、従業員が、自分たちのスキルを社会に還元したいという思いからスタートしました。ITツールに不慣れなシニア世代の方が、インターネットを通じて有益な情報や興味・関心のある情報にアクセスするのをサポートすることで、そのQOL(生活の質)向上に貢献することを目標にしています。毎回、20名の方にパソコンの基礎や日常生活に役立つ路線検索の方法などをわかりやすくレクチャーしています。



子ども大学 あげお・いな・おけがわ

2018年8月、埼玉県上尾市、伊奈町、桶川市の教育委員会が主催する「子ども大学 あげお・いな・おけがわ」の開催に協力し、小学生に多様な国・地域の人々と交流する機会を提供しました。

参加した小学5、6年生55名は、「上尾市で働く外国人と英語でコミュニケーション!」をテーマに、UDトラックスの外国人従業員の出身国当てクイズや自己紹介など英語でのコミュニケーションに挑戦。「英語が苦手でも外国人と話すのは難しいと思っていたけれど、やってみたら楽しかった」などの声が寄せられました。

児童養護施設でのフットサルコート建設

アフターマーケットの技能競技会「UDトラックス現場チャレンジ」の最終戦に各国から出場した従業員67名が、



本社近くの児童養護施設を訪問し、フットサルコートづくりに汗を流しました。

当施設はプロサッカー選手を輩出していることから、子どもたちのサッカーへの思いは強く、フットサルコートの完成を楽しみにしてくれていました。当日は、古い遊具の修繕やウッドデッキやベンチの製作など、外遊びエリア全体の整備も行いました。

平成30年7月 西日本豪雨災害被災地の復興支援

2018(平成30)年7月の豪雨で河川の氾濫や浸水、土砂災害など甚大な被害を受けた西日本エリアの方々へ、日本赤十字社を通じて義援金500万円を送りました。

また、特定非営利活動法人ITS Japanにテレマティクスが搭載されたトラックの位置情報を提供し、被災地支援における運行ルート情報として活用していただきました。UDトラックスでは、災害発生時の物資の輸送ルート検討の一助となることをめざし、UDインフォメーションサービス(UDIS)を介して災害時のトラックの位置情報を提供しています。





5
環境

環境経営の推進

基本的な考え方

ボルボ・グループは「環境方針」を定め、長年にわたり環境対策に取り組んできました。2018年には、この方針を一步進め、環境活動がボルボ・グループの使命の実現のために重要な取り組みであることを明確に宣言しました。

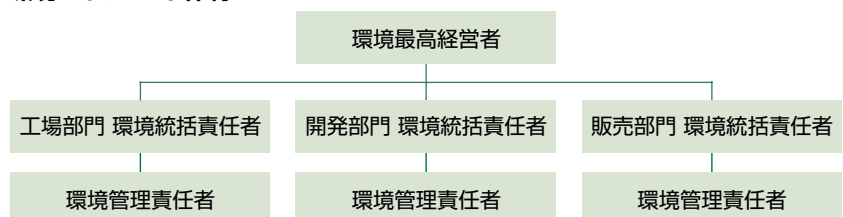
UDトラックスでもこの方針に則り、全事業活動において環境保全活動を推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

環境方針

「輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献する」というボルボ・グループの使命における重要な要素として、次の原則に基づき環境対策の推進に取り組みます。

- 製品ライフサイクル全体での環境に対する影響を継続的に削減し、持続可能性とカスタマー・サクセスを実現します。
- 事業を展開するすべての地域で、環境に配慮する責任を果たし、行動規範に基づいた行動により信頼を構築します。
- 私たちの影響が及ぶ範囲において、資源利用、排出物と廃棄物を最小限に抑え、様々な手段で循環型経済の実現に向けて変革を起こすとともに、会社の競争力をさらに高めます。

環境マネジメント体制



ISO14001 認証の取得

UDトラックスは、ISO14001の認証を取得しています。1998年度に上尾工場が取得後、2017年度までに各工場・関連会社において順次取得を完了しました。

現在は、全社で環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。

環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的を実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規

制の遵守状況などを確認・評価しています。

また、外部機関による審査も毎年実施しています。2018年5月には、ISO14001:2015年改訂規格への移行のための審査を受け、8月末に移行を完了しました。

製品ライフサイクルでの資源の有効利用と環境負荷低減

UDトラックスは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行い、環境に配慮した製品を提供するとともに、資源の有効利用と環境負荷の低減に取り組んでいます。

燃料消費を抑制する技術の開発

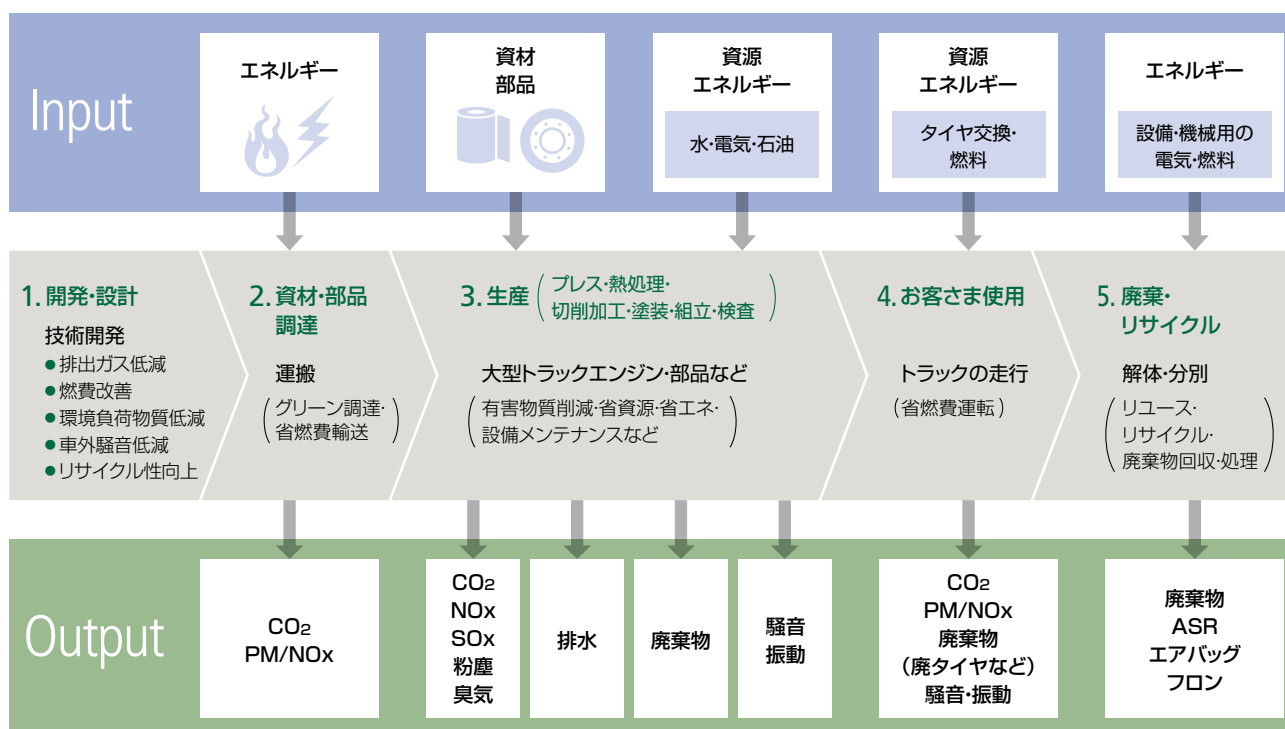
トラックの燃料消費は、事業者にとつて経営上の大きな負担となるだけでな

く、地球温暖化に及ぼす影響が最も大きいCO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリーごとに目標燃費値が設定されています。2018年度販売実績において、目標燃費を達成した車両台数は販売台数の98%を超え、平均燃費値においては2012年以降企業目標を達成しています。

また、車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術をレクチャーする「エコドライブ講習会」を全国各地で継続的に実施しています。

マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO₂と排出ガス(PM・NO_x)です。

燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上や、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載することにより、大型トラック「クオン」の主要車型の9割以上において「平成27年度重量車燃費基準」の目標値に対して105%以上を達成しました。

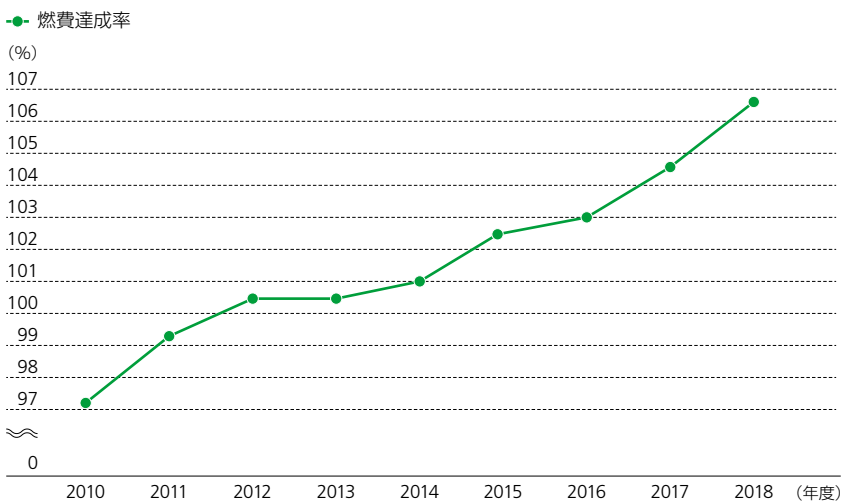


燃費改善に貢献する「クオン」のドライブライン

大型トラック「クオン」に採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド) ● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御) ● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料噴射システムの変更 ● 燃烧室(ピストン)の形状変更 ● 吸気系の形状変更 ● 可変速のウォーターポンプの採用
駆動系	<ul style="list-style-type: none"> ● ESCOTロール(惰力走行時の速度低下制御) ● アクセラレーションリミッター(急激なアクセル操作の抑制) ● ソフトクルーズ(加速制御)

UDトラックス燃費改善状況



※ 2015年基準値を100%とした場合の中型・大型トラック総販売台数による加重調和平均。

化学物質の管理

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS※1へ情報を登録

生産段階

- PRTR制度※2に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

事業活動に伴うCO₂排出量の削減

ボルボ・グループは、2011年にWWF(世界自然保護基金)の「クライメート・セイバーズ・プログラム[※]」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO₂量を2014年までに2008年比12%削減する目標を掲げていましたが、2013年に目標を大きく上回る20%の削減を達成しました。

この結果を受け2015年からは、2020年までに2013年比で8%削減する目標を新たに掲げ活動を加速させています。UDトラックスもこの削減目標達成に向け、各部門の代表者で構成する「省エネルギー推進会議」などにおいて、具体的な活動項目やアクションプランを検討しています。

またUDトラックスでは、「2013年度のCO₂排出量については1990年度比39%の削減」という目標を掲げ、その成果として当初目標を大きく上回る61.3%の削減に成功しました。現在は、生産量の増加に伴う排出量を含め、2020年目標の達成に向けて削減を進めています。

[※]WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。



本社ビル各階に設けたリサイクルステーション

製品廃棄時の廃棄物削減

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を全ディーラー拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、ディーラーへ発送するサービスパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各ディーラー拠点に再利用を促しています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプ、リサイクル材使用フェンダーなど、解体のしや

すさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。2018年度においては、廃棄物最終処分量を1990年度比で99.9%削減。また、リサイクル率も全社で99%以上(ゼロエミッション)を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

「環境コミュニケーション2018」を開催

2018年11月、本社近隣自治体の責任者11名をお招きし、「環境コミュニケーション2018」を開催しました。上尾工場や本社における環境負荷低減の取り組みを説明したあと、展示ホールで製品の開発計画などを紹介しました。参加者の皆さまからは、「UDトラックスが近隣環境に配慮した事業活動を行っていることを知る機会は大変大切」「今後も環境活動にとどまらず、地元企業として積極的に地域に貢献してほしい」といった多くの貴重なご意見をいただきました。



環境データ

ISO14001 認証状況

1988年度	上尾工場
2004年度	鴻巣工場 ※2015年1月グローバルコンポーネントテクノロジー(株)に譲渡
2004年度	羽生工場 ※2016年3月ユニキャリア(株)に譲渡
2005年度	株式会社DRD ※2013年6月テンプスタッフ(株)に譲渡
2005年度	株式会社テクサス ※2013年7月UDトラックス(株)に併合
2006年度	株式会社エヌテック ※2015年3月(株)木原製作所に譲渡
2008年度	株式会社ジャパンビークル ※2011年7月UDトラックス(株)に併合
2009年度	株式会社ボルボ・ロジティックス・コーポレーション・ジャパン ※2014年4月UDトラックス(株)に併合

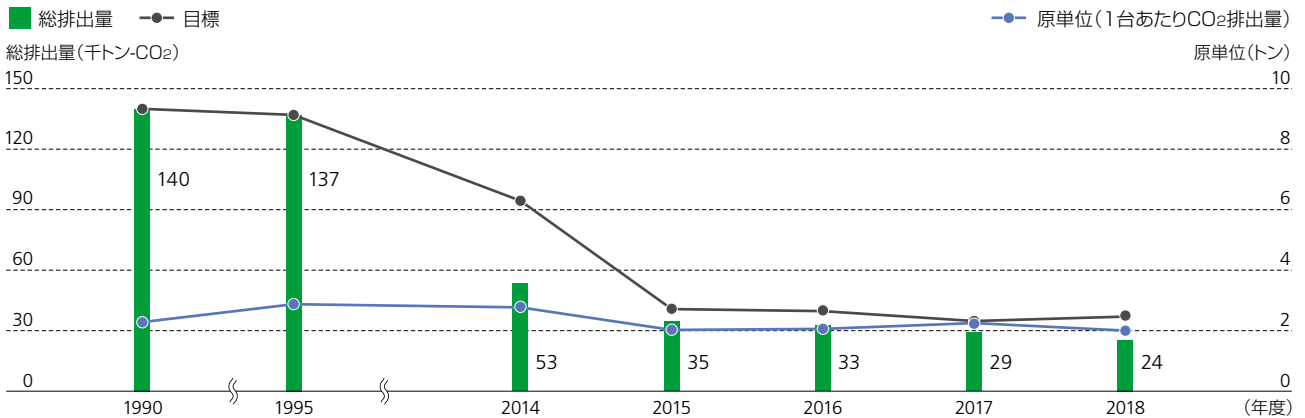
PCB保管状況(2018年度)

	上尾工場
コンデンサ	2,804kg
安定器	25,367kg
トランス	800kg
合計	28,971kg

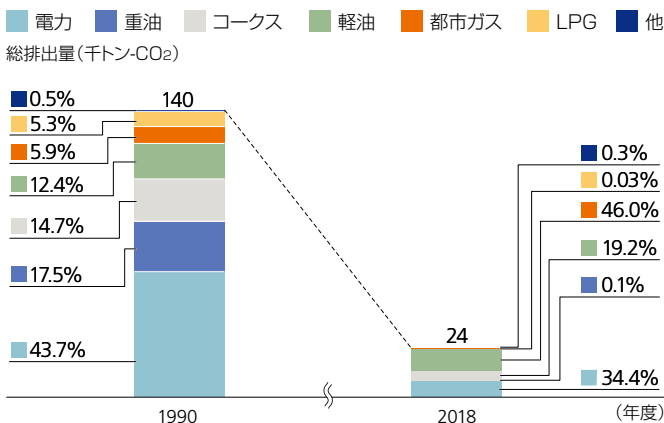
※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含む。
※重量は一部推定を含む。

エネルギー／CO₂

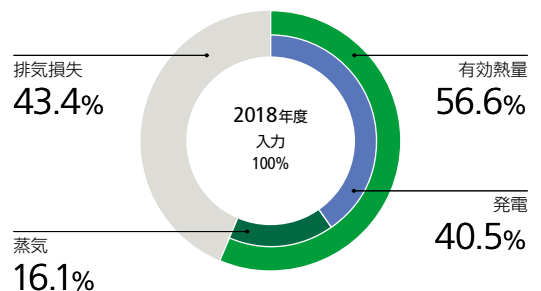
CO₂総排出量



エネルギー別CO₂排出量

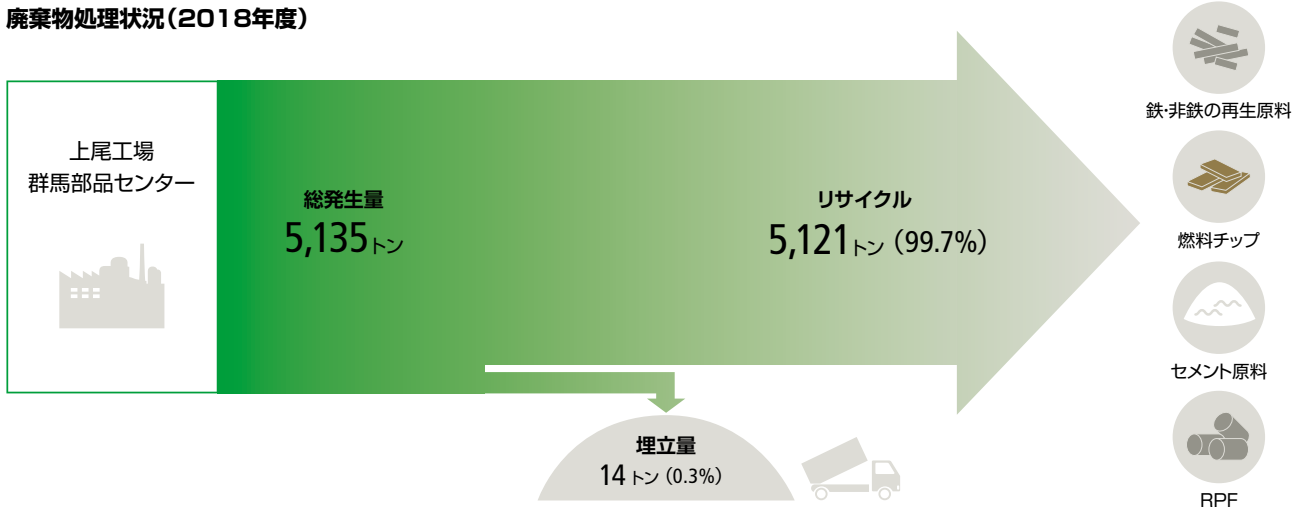


大型天然ガスコジェネレーションの熱収支

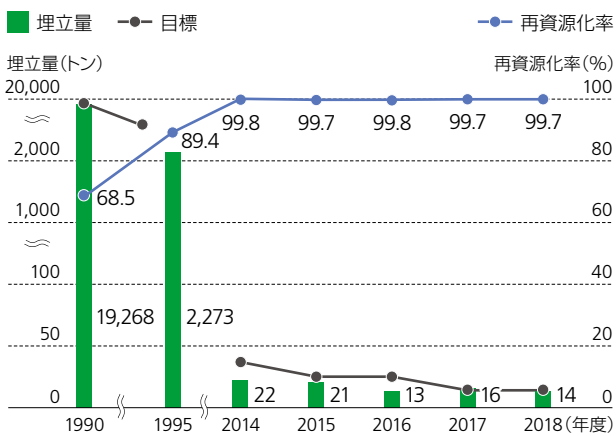


資源

廃棄物処理状況(2018年度)

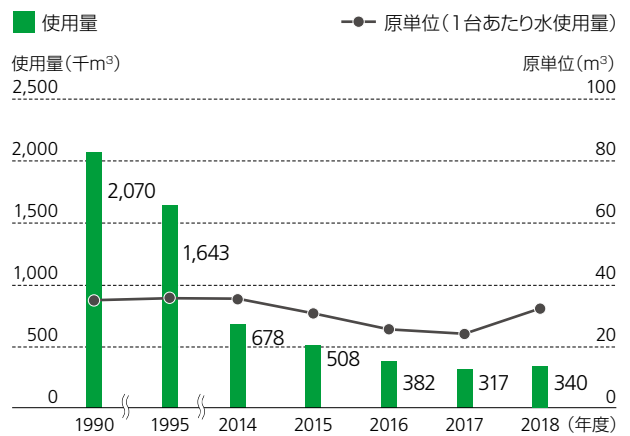


廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

水使用量



化学物質 [PRTRデータ] (上尾工場、2018年度)

単位:kg/年

政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量	除去処理量	リサイクル量	消費量(製品)
			大気	水域	土壌	廃棄物			
53	エチルベンゼン	16,633	6,475	0	0	0	1,876	8,196	86
80	キシレン	30,982	9,369	0	0	0	2,043	19,124	446
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2,191	1,102	0	0	0	524	0	564
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	4,124	483	0	0	0	41	3,491	109
300	トルエン	6,153	4,062	0	0	0	1,244	85	763

エネルギー/CO₂、資源関連データの集計範囲は、上尾工場と群馬部品センター。
ただし、「廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率」「水使用量」は、2017年度まで他工場のデータも含んでいます。
詳細な環境データをウェブサイトに掲載しています。



CSR戦略

UDトラックスでは、当社として取り組むべきCSRの方向性を定め、ブレのない活動を展開するために、独自のCSR戦略を策定しました。

このCSR戦略では、CSRでめざすべき姿をCSRビジョンとして定めています。また、CSRのなかでも、とくに、社会課題の解決への取り組みを通じてステークホルダーと当社の双方に価値を生み出し、持続可能な社会をめざすCSV (Creating Shared Value=共有価値の創造)の領域に注力することを明確にしました。

CSVの推進においては、当社の事業に密接な関係がある「物流」「地域社会」にフォーカスすることによって、当社のもつ知見や専門性、人材や施設といった経営資源を社会に還元することをめざしています。さらに「物流」では、「環境」「安全」

「人」という3つの重点エリアを定めることで、より具体的で実効性のある活動につなげていきます。

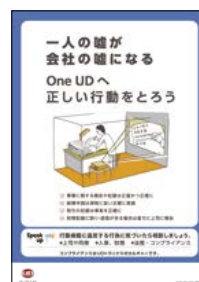
同時に、すべての事業活動のなかで必ず実行すべきCSRを「基本的CSR」と定義し、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスの強化、ボルボ・グループの行動規範や主要方針、ISOなどに基づく取り組みなどを推進していきます。

CSR戦略は、ボルボ・グループのCSR方針と一貫性を保ちながら、当社の事業戦略やブランド特性を加味したものとなっており、グループのめざす個々のブランドの強化によるシナジー効果の創出にも合致したものです。UDトラックスは、CSRのさまざまな取り組みに従業員の参画を促しながら企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



ボルボ・グループ行動規範

ボルボ・グループでは、法令を遵守し、倫理的にビジネスを遂行するために、世界中のすべての従業員が実践すべき基本原則や行動を「ボルボ・グループ行動規範」に定めています。UDトラックスでは、事例を取り入れた冊子やポスターを作成・配布しているほか、行動規範をテーマにした経営層と各部門代表者によるパネルディスカッションの様子をまとめたビデオや紹介記事をイントラネットに掲載するなど、全従業員の意識啓発に取り組んでいます。



ボルボ・グループ行動規範の周知を図るポスター

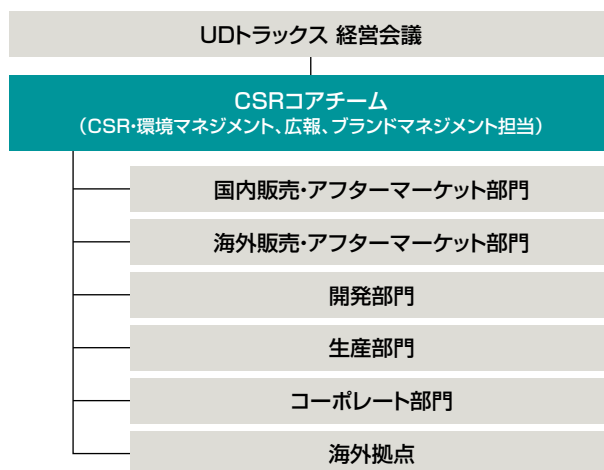


ボルボ・グループ行動規範の周知を図るポスター

CSRマネジメント体制

CSR・環境マネジメント担当が中心となり、CSRを推進しています。社内のさまざまな部門で取り組んでいるCSR活動に関する情報の集約やコーディネーションのほか、広報やブランドマネジメント担当と協力してコアチームを構成し、CSRストラテジーの策定など会社全体のCSRの枠組みや社内外への認知向上などについて検討しています。

また、全社で方向性の一致した活動を展開していくために、海外の拠点を含む各部門でCSR担当者を選任し、定例会議のなかで組織横断的な情報の共有や具体的な活動の企画・検討を行っています。さらに、経営会議において取り組みの進捗を報告し、経営層の指示・判断、承認を受けています。



コンプライアンス

UDトラックスは、「ボルボ・グループ行動規範」に定められた「お互いを尊重する」「公正かつ合法的にビジネスを獲得する」「事業活動と個人的な利害を切り分ける」「企業情報と資産を保護する」「透明性、そして責任感をもってやり取りを行う」という5つの重要な原則に則った事業活動に努めています。

この「ボルボ・グループ行動規範」に定められた原則を周知するため、UDトラックスにおいては、経営幹部や従業員に向け

て、法令遵守のための研修やeラーニングなどを継続的に行っています。従業員の入社時はもちろんのこと、それ以外にも各々の担当業務に則した内容で随時実施しています。

また、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適時かつ適切に対応できるよう、内部通報制度や監査体制を社内に整備しています。

リスクマネジメント

セキュリティ管理部門が中心となって、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。同部門の主な責務は、従業員およびビジターを対象とした職場の安全の確保や、事業に関する秘匿情報や資産の保護、緊急事態への対応、クライシスマネジメン

トおよび事業継続計画の策定、災害復旧の支援など多岐にわたります。

起こりうるリスクを想定し、未然に防ぐことによって、より安心・安全な事業環境の実現に取り組んでいます。

情報セキュリティ

ボルボ・グループの「セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。またこのポリシーを反映した情報セキュリティ・ガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用・管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報の漏洩防止対

策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的の実施しています。

これらとともに、UDトラックスはボルボ・グループの「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。

1935年の創立以来、UDトラックは日本の商用車メーカーとして、物流の現場に携わってきました。自動車業界が100年に一度といわれる変革期を迎える今、社会のニーズやお客さまの声に耳を傾けながら、さらに一歩先を見据え、より良い製品とサービスの提供に取り組んでいます。

会社概要

(2018年10月1日現在、従業員数を除く)

会社名	UDトラック株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字壺丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,188名(契約社員等および派遣社員を含む、2018年12月末日現在)
主な事業	<p>国内事業</p> <p>大型トラックの開発・生産・輸出・販売／中小型トラックの販売／自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売／ボルボブランド製品の輸入・販売</p> <p>海外事業</p> <p>新興国向けの大・中小型トラックの開発・生産・販売／自動車用部品の製造・販売／トラック・バスの整備・補修部品などの販売</p>
国内グループ会社	VFSジャパン株式会社、株式会社ニューメック
海外主要拠点	シンガポールオフィス、タイ工場、部品センター(シンガポール、ドバイ、南アフリカ、アメリカ)

役員



代表取締役会長
ヨアキム・ローゼンバーク



代表取締役社長
酒巻 孝光



取締役(非常勤)
ヤングランダー



監査役
大槻 正広

市場別販売台数

(2018年度、工場出荷ベース 単位:台)

アジア	16,221
アフリカ、オセアニア	4,034
北米	62
南米	319
合計	20,636

取り扱い製品



UDトラック

大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」を展開。



ボルボトラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における主な製品は、ボルボFH4×2、6×4トラックター。



ボルボ・ベンタ

ボルボ・ベンタブランドの産業、船用エンジンの輸入と各OEMへの搭載技術支援。日本市場での主力製品はフォークリフトなどに使用される産業用エンジン、レジャーボート用高級船用エンジン。



ボルボ建設機械

ボルボブランドの建設機械の輸入・販売。日本市場における主な製品はホイールローダ、アーティキュレートダンプトラック。

UDトラックが所属するボルボ・グループは、スウェーデン・ヨーテボリを本拠とし、トラックやバス、建設機械、船舶・産業用エンジンの製造や金融サービスなど、さまざまなソリューションを提供するグローバルカンパニーです。世界18カ国に生産拠点を置き、約10万名の従業員が、190以上のマーケットで事業を推進しています。

事業分野



路上

家庭への食品輸送や目的地への移動、道路の整備など、さまざまな用途で活躍しています。また、生産に必要な部材の輸送や工場の安定稼働の一翼を担っています。



建設現場や鉱山

ボルボ・グループのエンジンや機械、車両は、建設現場や鉱山、森林など、さまざまな現場で使われています。



市街地

通勤手段や荷物の配達、ごみの回収など、ボルボ・グループの製品は日常生活の一部です。電動化を中心に未来の公共交通ソリューションの開発も進めています。



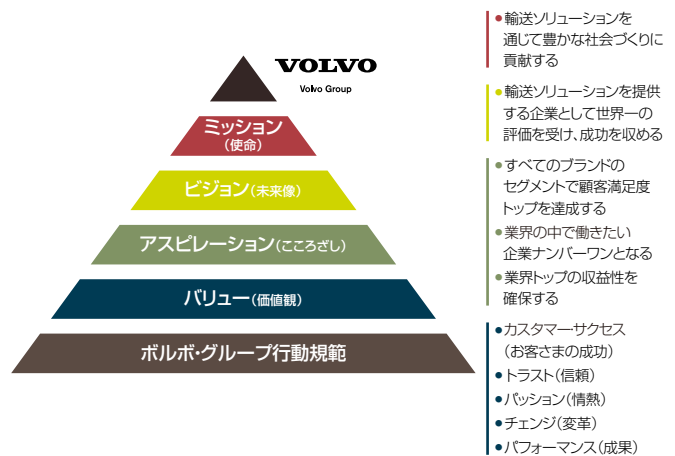
海上

船舶を使った業務やレジャーから救命救急の現場まで、海上における多様な活動を支援しています。

企業戦略

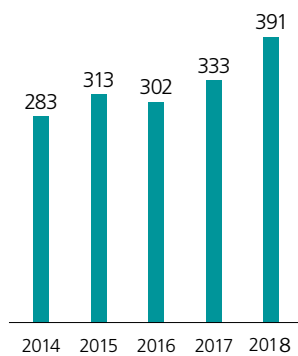
ボルボ・グループの「ミッション」は、「輸送ソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献すること」です。そして、それを実現するための「ビジョン」、ビジョンを実現するための目標となる「アスピレーション」、企業文化を醸成するための「バリュー」を、ボルボ・グループがめざすべき方向性としてすべての従業員と共有し、あらゆる事業活動に反映しながら、さらなるビジネスの発展と持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

また、全従業員が履行すべき基本原則や行動を「ボルボ・グループ行動規範」として定め、すべての事業活動において求められる倫理感とコンプライアンスを明確に示しています。

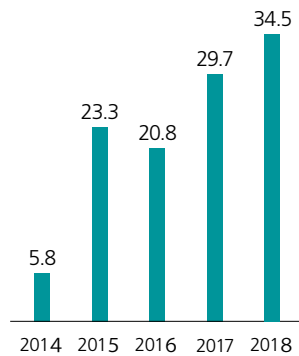


2018年の主な業績

売上高(10億SEK)



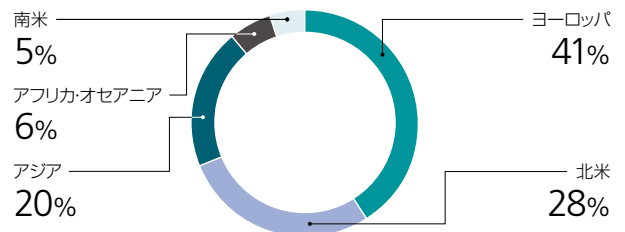
営業利益(10億SEK)



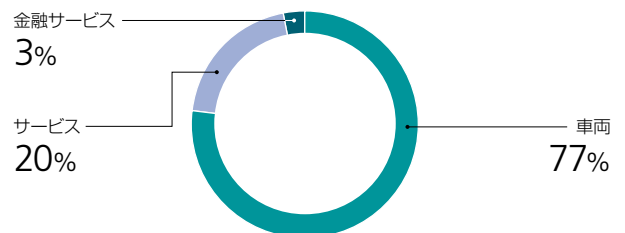
従業員数 105,175名	女性従業員比率 19%	CO ₂ 排出原単位 1.1 t/百万SEK	エネルギー消費原単位 5.8 MWh/百万SEK
-------------------------	-----------------------	---	------------------------------------

SEK: スウェーデンクローナ、1SEKは約11.3円 (2019年11月現在)

地域別売上高比率



商品別売上高比率



UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字荻丁目1番地
udtrucks.com/japan

